

1. 目的

平安時代の人々は、どのような生活をしていただろうか。そして、どのような思いを抱きながら文学作品を読んできたのだろうか。本講座は、平安時代の人々の生活様式や精神構造に多角的に迫っていくことから始める。その上で比較的短い古典作品を通読し、平安人がどのようにその作品を受容したのかを考える。古典を同時代的に読む力を身に付け、広い視野で古典文学を読む力を養う。

2. 概要

1 学期は、平安時代の歴史の流れや制度、生活習慣などについて調べ、古典文学の背景を総合的に理解するための基礎知識を身に付ける。2 学期は、「竹取物語」や「枕草子」を読み、平安人がどのように作品を受容したかを考え、プレゼンテーションを行う。3 学期は、各自で平安時代の作品を選び、考察を加え、発表会で他学年に向けて発信する。

表 1 年間指導計画

4 月	ガイダンス
5 月～7 月	平安時代の歴史の流れ、制度、生活習慣などについて調べ、レポートを作成する。
9 月～12 月	「竹取物語」を通読し、平安人がどのように考えたかについて、自分の考えをまとめる。考察した内容をプレゼンテーションにより発表する。
1 月～3 月	経案時代の文学先品を、各自 1 つ選び、平安朝の人々がどのようにその作品を受容したのかについて自分の考えをまとめる。
3 月	校内発表会・振り返り

3. 成果と課題

前半の、基礎知識習得に時間を使いすぎてしまい、多様な文学作品に触れることができなかつた。一方で、基礎知識をしっかり習得しことにより、作品の読解が深まり、各自がしっかりと「読み」を持つことできた。個人作業と発表活動をバランス良く配置し、授業を活性化することが課題である。

1. 目的

メディアを通して発信される情報を我々はどうのように吟味し評価していく必要があるのかを考え、以下の 3 点を身に付けることを目的とする。(1)クリティカルな視点を獲得し、メディアに対して自分の考えを構築することができる。(2)情報の収集・分析・吟味・評価ができる。(3)目的に沿って様々な媒体を使い、自分の考えを表現することができる。

2. 概要

1 学期から 2 学期前半は共通課題、2 学期後半からは個人テーマを設定し、成果発表会に向けて取り組んだ。

表 1 年間指導計画

4 月	ガイダンス
5 月～6 月	課題図書『街場のメディア論』(内田樹・光文社新書)を読み、各講ごとに意見をまとめ、共有
6 月～8 月	以下の課題への取組 ①メディアの種類を整理・分析する ②メディアリテラシーを定義する ③メディアに関する本を1冊読み、紹介する(要約/PPT 作成)
9 月～10 月	本の紹介プレゼンテーション
10 月～12 月	個人テーマ設定・調査・研究 →中間報告
1～3 月	PPT 資料作成・要旨作成 成果発表会・要旨提出

3. 成果と課題

目的の(1)・(3)は、概ね達成できた。特に共通課題の③においては、共通課題図書での意見共有を受けて各自が感じたことを踏まえて本を選び、紹介し、意見を述べることで、より考えが深まったり、新たな視点を得られたりした。課題としては、学習者の興味関心に重きを置いたテーマ設定を推奨したこともあり、最終的に「メディア」という大きな枠組みになってしまったことだ。1 学期の共通課題で取り組んだ内容が、個人研究にどの程度活かされたのかは、個人が設定したテーマによって様々である。学習者の多様な興味関心に対応できるよう、共通課題については見直し、検討をしていきたい。

1. 目的

哲学は人間と世界(存在するものの全体という意味での)の関係が問題となるとき生まれる。この講座では、いくつかの哲学的問題について、代表的哲学者の思想を紹介するとともに生徒相互の哲学対話を行って哲学的思考を深め、そのうえで各自が自由にテーマを設定して研究を進め、成果を論文にまとめる。

2. 概要

(1)今年度講座で取り上げた事項は次のとおりである。

「哲学(philosophia)の誕生」ソクラテス、プラトン

「正義」アリストテレス、ロールズ

「自由」ルソー、カント、ミル、サルトル

「哲学と科学」ベーコン、デカルト、カント、ハイデガー、

フランクフルト学派、フラインマン

「死」エピクロス、ハイデガー、荘子、西田幾多郎

「幸福」功利主義、ストア派、カント

(2)これらを受けて行われた哲学対話の話題は、「自由」、「人間と自然」、「死」、「幸福」、「他者」である。

(3)以上のことを10月中まで行い、11月からは個別の研究に入る。12月現在、生徒は「幸福」、「意識(物心二元論)」、「幸福と承認欲求」、「哲学と科学の共存」、「正義」、「自己と他己」、「遊び」、「宗教と哲学」、「AIと倫理」、「AIと人間」、「多重人格」、「アニメから読み解く死生観」等のテーマで研究を進めている。

3. 成果と課題

筆者にとり前期3年生に哲学の講座を開き哲学対話を実施するのは初めての試みだったが、生徒13名は非常に高いモチベーションで積極的に取り組んできた。対話を通じ一人ひとりが日頃から哲学的な問題を深く考えていることも分かってきた。発達段階からいっても14~15歳というのは一つの良いタイミングであろう。ただし、個別研究では、最終的に論文にまとめることのできる主題を設定するのに苦労する生徒もいる。

1. 目的

三大宗教とされるキリスト教、イスラーム、仏教および日本人の宗教観の概要についての基礎を講義した上で、各自が関心に応じたテーマを設定して調査・研究・発表を行うことを通して、調査研究の基礎を体験することを目指した。

2. 概要

表1 年間指導計画

4～8月	<ul style="list-style-type: none"> ・「宗教」の成立・発展、三大宗教及び日本人の宗教観について講義を行い、基礎知識を定着させるとともに、関心分野の拡大を図った。 ・夏季休業中に研究のテーマの設定させた。
9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の調査テーマについて、生徒自身での調査・研究を行わせ、適宜アドバイスを与えた。 ・中間報告を行い、他の生徒との質疑応答・自己評価・相互評価を行った。 ・プレゼンテーションソフトによる発表の方法について実例を用いて講義し、技術の習得を図った。
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会に向けて予行を行い、適宜指導を与えるとともに、自己評価・相互評価を行った。 ・全体発表会を実施した。

3. 成果と課題

「宗教」に馴染みがない生徒が多いが、講義を通して、基本的な知識を獲得し、一定程度の理解の段階に達したことで、各自のテーマ設定に困難を来すことはなかった。

どの生徒も調査・研究に対して積極的な姿勢で熱心に取り組み、3年次生としてレベルの高いものになり、プレゼンテーションソフトを利用した発表は、意欲的なものになった。課題に対して積極的な姿勢が育成されたものと感じる。

一方、生徒の興味・関心を優先するため、設定されるテーマは、一般的な宗教だけでなく、心理学・歴史学にも範囲が広がり、非常に多岐にわたるものになる。本年度は「オタク」「富士講」などがテーマに上がった。そのため指導者側の準備・研修が膨大なものになる。この点についての支援を充実させる必要がある。

1. 目的

この講座では、自由な発想のもとで、自分の興味のある数学の分野について研究し、普通の授業のような制限時間のある中で正答を得ることに重点を置くものとは違い、のびのびと余裕をもって深めていけることを大切にしている。自分が立てた予想について発表、議論を繰り返していくことで条件を整え、自分の予想の精度を高めていくことができる。

2. 概要

年間指導計画にあるように、まずは多くの数学の題材に触れ、自分の研究する分野、内容を見つけてのきっかけを与える。その後、各自が研究テーマについてパワーポイントを作りながら、発表、議論を繰り返し、内容を整えていく。作成したパワーポイント、ポスターは校内発表会、SSH 合同発表会等で使用し、自分の成果を発信していく。また、希望者は JJMO(日本ジュニア数学オリンピック)に参加している。

表1 年間指導計画

4月	ガイダンス
5月～7月	JJMO の過去問題や様々な数学の題材に触れることで視野を広げる。
8月	研究テーマを探し、発表準備をする。
9月～12月	発表、議論を繰り返し、研究の精度を高める。
12月	東京都 SSH 合同発表会に参加 (HP 上でポスター発表)
1月	JJMO 予選 マスフォーラム発表
2月	JJMO 本選 研究計画の立案・調査・研究
3月	小石川フィロソフィーⅢ発表会

3. 成果と課題

今年度は2講座で14名の生徒が受講し、様々な研究活動が行われた。代数、幾何、統計等の分野で歴史や背景を調べる研究や実際に実験を行う研究、自ら立てた予想が正しいかどうかの検証を行う研究など、各々が関心を持ったテーマを設定した。2学期の活動のまとめに、12月の東京都 SSH 合同発表会にて HP 上でポスター発表を行えた。3学期の校内発表会、マスフォーラムに向けて更に研究を進めていく。

1. 目的

理科では、自然科学の探究の方法の基礎を学ぶ機会として本講座を設定し、開講して9年目となる。課題研究を行うにあたり、自然科学領域に共通する内容を3学年において段階的に学び、次年度以降の課題研究が充実し、かつ継続した研究となることを期待して、本授業の研究開発を行った。検証実験の実践を早期から行い、探究過程を何度も回す中で、リサーチクエッション及び検証計画のブラッシュアップを図りながら、生徒の探究力の向上を図った。

2. 概要

各自のリサーチクエッションに対し、何度も探究過程を回せるよう、表1のような年間指導計画を展開した。

表1 年間指導計画

4月	ガイダンス、理科の見方・考え方を活用した問いの立て方
5月	検証可能なテーマ、仮説の立て方、生徒同士及び教員と生徒の対話によるリサーチクエッションのブラッシュアップ
6月	検証実験計画の立案とブラッシュアップ
7～9月	各自の課題研究・データ解析、中間発表会、エクセルを使ったデータ分析
10～11月	各自の課題研究・データ解析
12～1月	各自の課題研究・データ解析、中間発表会
2月	発表資料作成・準備、発表リハーサル
3月	発表会

3. 成果と課題

12月に実施した授業評価アンケートでは、「あなたは、この講座に主体的に取り組む、講座に参加していますか」という質問に対して79%が「あてはまる」、21%が「ややあてはまる」と回答していた。また、「目的や意義が達成されていますか」という質問に対し、89%が「あてはまる」、11%が「ややあてはまる」と回答していた。生徒は自らの課題の探究に主体的に取り組んでおり、講座のねらいを達成していた。コロナ禍ではあったが、リモートでのテーマの発表会やグループでの対話を通じて、6月には課題研究を始められた。来年度も生徒が試行錯誤し自ら探究する時間を多く確保していく。

1. 目的

本講座では生徒が自分の競技力を向上することを目的として、実技を通して実証実験を行い、設定したテーマについて科学的な方法で結論を導き出す術を学ぶ。さらに、まとめを行い、発表を行うことで研究内容を他者に伝える表現力を養う。

2. 概要

本講座では生徒が興味・関心を持ったスポーツの特性について個人またはグループで研究し、実証実験を通して、テーマ設定した内容を研究する。主に実技の実証実験は部活動の時間を実施し、授業中は実証実験の結果を振り返ることや次の実証実験のための改善策を考えるなど調べ学習の時間であった。また小石川フィロソフィーⅢ発表会に向けて、聞く側が分かりやすいように、をテーマに資料作成を行った。

研究テーマとなった種目は以下である。

- ・バスケットボール ・バレーボール ・ラクロス
- ・サッカー ・陸上競技 ・水泳 ・剣道 ・硬式テニス

表1 年間指導計画

4月	ガイダンス
5月～6月	テーマ設定のために、情報収集して 雑読する。実験方法の検討
7月～9月	研究実験の検証
10月	中間発表
11月～1月	研究実験の検証 発表に向けての準備 論文作成
2月	講座内発表会
3月	小石川フィロソフィーⅢ発表会・論文 提出

3. 成果と課題

テーマを生徒の興味あるスポーツの競技力向上にさせたことで、年間を通じて真剣に取り組ませることが出来た。また、目標を設定し、検証、結果を振り返り、再び目標設定をさせることで、探究活動を充実させることができた。

課題としては、生徒一人一人の目標設定が高く、時間数が足りなかったことである。

1. 目的

本講座では、言葉そのものを考察することや英語圏の国々と日本の比較研究などを通して、言語や文化の理解を深める。また、それら考察や研究を土台として、特に日々の英語学習への応用など、各自の実生活に役立つような、実践的な探究を行う。

2. 概要

研究の基本的な考え方や取り組み方を学ぶとともに、より良い研究と効果的な発表を目指して、各自が調べ、考えたことをもとに、意見を交換したり一緒に考えたりする機会を設定した。

表1 年間指導計画

4月	ガイダンス
5月～6月	研究や文献調査の進め方
7月～8月	文献調査
9月～10月	中間報告書(スライド)の準備
10月～11月	中間報告書発表
11月～1月	論文の作成方法を学び執筆する
2月	最終発表会への準備
3月	講座内発表会・論文提出

3. 成果と課題

基本的な研究への取り組み方を理解し、個々人の興味関心のある分野について、研究として意義のあるものへと変化させることができた。またお互いの研究内容について意見交換することで、物事を多角的に捉える練習になった。効果的な発表方法についても検討することができた。

1. 目的

近年、国連の掲げるSDGsという目標に沿って、政府・NPO・NGO等の国際協力活動が活発化し、またそこに興味を持ち活動する若者が増えている。各国の抱える問題は地球全体の問題として国際協力について考え、開発途上国の実態、課題、何が必要なのか、私たちに何が出来るのか等について、多角的に考察し研究することを目的とする。

2. 概要

第3学年14名を対象に、毎回テーマを提示し、考察や意見交換を通じて理解を深めていく。またフィールドワークやゲストトークを実施し、主体的に問題をとらえ、自由にテーマを設定し探究学習を行う。

表1 年間指導計画

4月～5月	ガイダンス ベリーズとは / 国際協力の定義とは 開発途上国について / 水・ごみ問題 SDG4 教育キャンペーン(世界一大きな授業)
6月～7月	ニジェールの教育課題 / 女性と教育 難民問題 イスラーム:イメージと実態 研究発表:自分の気になる国と抱えている問題
9月～10月	SDGs:自分にできる対策を考える 国際ガールズデー:児童婚 研究テーマ設定
11月～12月	課題研究
1月～2月	JICA 地球ひろば訪問 深圳日本人学校とのオンライン交流 国境なき医師団によるオンライン講義 外務省によるODA オンライン講義
3月	校内発表会・要旨提出

3. 成果と課題

ニュースではよく見聞きするが実感の湧きにくい途上国の問題も、実は私たちの生活と密接に関わっているという事実を、課題研究やフィールドワーク等を通じて理解することが出来た。個人の努力だけでは解決できない国際問題だが、今回の気づきをきっかけに、これから実際に具体的な行動に移していくことを次の目標としたい。